

## 2011/2012年冬期における全国および新潟県内の積雪深分布の特徴

伊豫部 勉・河島 克久・和泉 薫

### 1. はじめに

2011/2012年冬期は、2010/11年冬期に続き全国的な豪雪年となった。消防庁の報告によれば、今冬は全国で132名が雪の事故の犠牲となり、1980名が重軽傷を負った。死者数で見れば戦後4番目を記録した昨冬の131名を上回り、深刻な豪雪であったことは明らかである。また、住宅被害も全棟13棟、半壊・一部半壊が約500棟となっており、昨今急増する空き家の管理が社会問題として浮かび上がった。著者らは2011/12年冬期の豪雪の実態調査の一環として、伊豫部らの手法を用いて詳細な積雪深分布図を定期的に作成するとともに、それらを住民、自治体など地域全体の冬期防災情報として共有・活用するために、Web上で即時的に配信する試験運用を行った。今後、我が国における長期的な積雪深分布の変化傾向を調査し、比較していくための一つの資料として、ここに今冬の積雪深分布の調査結果を報告する。

### 2. 天候概況

冬型の気圧配置が強く寒気の影響を受けやすかったため、北日本から西日本にかけて12月、1月、2月と3か月連続低温で、冬の平均気温が低かった。特に12月下旬と、1月下旬から2月にかけては、強い寒気の影響によりたびたび大雪となった。低温の状態が続き積雪が減少する時期が少なかったことに対応し、冬の最深積雪の平年比は多くの地点で降雪量の平年比に比べて大きくなり、年最深積雪を更新した地域も多かった（2012、気象庁）。

### 3. 全国および新潟県内の積雪深分布図

図1に全国的に積雪深がピークに達した2012年2月10日9時の全国の積雪深分布図を示す。これによると、北海道北部から福井県にかけての日本海側地域において、2m以上の積雪が広く見られた。さらに、山形県～新潟県にかけて3m以上の多雪域が連続的に見られ、この分布の傾向は、「平成18年豪雪」や昨冬でも認められた。特に、新潟県上・中越地方では、標高の低い海岸部や平野部でも2m近い積雪で覆われており、このクラスの積雪が占める割合は他の都道府県と比較しても大きいことが分かる。

図2に新潟県内の詳細積雪深分布図の時系列変化（2012年1月27日～3月28日）を示す。本研究では、同期間における積雪深分布図を週に一度の割合で作成し、計9回の結果を当研究所HPで随時公開した。

図2の2月2日には上越地方の山間部を中心に3mクラスの積雪が現れ始め、4mを超える地域も見られた。その後、新潟・長野県境及び新潟・群馬県境に近い一部の地域を除いた広い地域で積雪深が大きく増加し、8日後の2月10日には、新潟県のほぼ全域が豪雪のピークに達していたことが分かる。それ以降は、降雪や低温により融解が進まず、3月下旬でも上・中越地域の一部などでは2m以上の積雪が残って

いた。

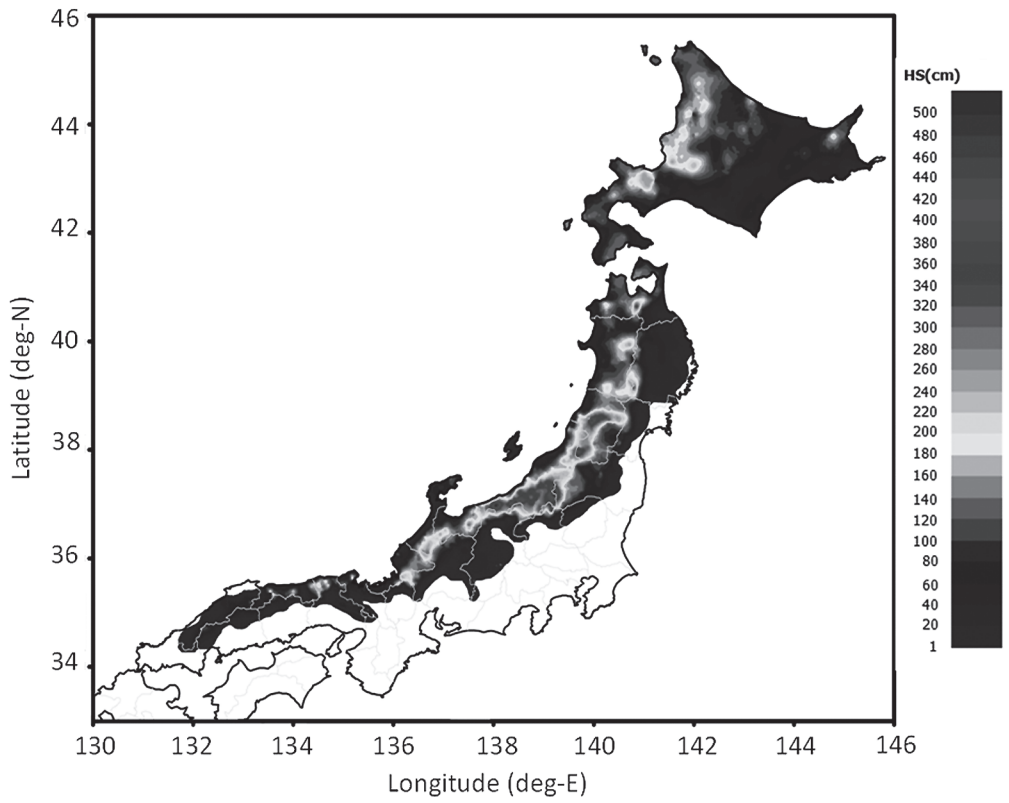


図1 Web上で公開される全国2,190地点の積雪深データを元に作成した2012年2月10日9時の積雪深分布図

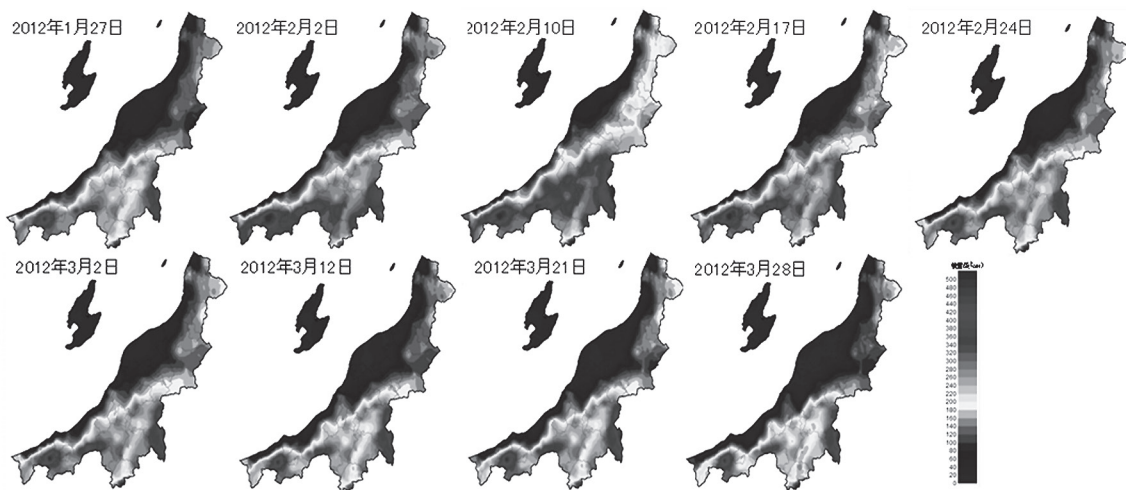


図2 Web上で公開される積雪深データを元に作成した新潟県内の積雪深分布図の推移